

生誕80周年

アンネ・フランク展



私は
死後も生きてい
るような
仕事をしたいのです

5/28(木)~5/31(日)

入場無料

共催
アンネ・フランク展実行委員会
ホロコースト記念館(福山市)
後援
宮城県教育委員会

開館 午前 10:30 閉館 午後 7:00

最終日の5月31日(日)は午後5時まで。

アンネ・フランク家に関する品
ホロコーストの遺品が仙台に来ます。

15歳少女の生涯をたどるパネル展示等

お誘い合わせの上、お気軽にお越し下さい。

会場

聖イエス会

仙台ベタニヤ教会

仙台市泉区黒松1-14-16

TEL 022-233-5760

地下鉄黒松駅より徒歩7分

URL <http://park6.wakwak.com/~betaniya/anne.furankuten/>



アンネ・フランク展

主旨

平和とは何か?生きて行く上で何が大切なのか?第二次世界大戦にナチスによって若くしていのちを落としたアンネは子どもながらにその小さな胸で何よりも平和を願っていました。この展覧会はアンネの生き方と日記に綴られた言葉をたどりながら、今生きている私達へ向けられたアンネの平和へのメッセージを伝えるものです。

展示内容

- アンネ・フランクの生涯をたどる写真とパネルの展示
- 形見の品・遺品

アンネ・フランク

「アンネの日記」を書いた少女。アンネは1929年ドイツのフランクフルトで生

まれた。ところがトラーのひきいるナチスによるユダヤ人に対する差別と迫害が起り、ユダヤ人である一家はオランダに引越し、やがて隠れ家に逃れた。しかしついには捕まって強制収容所へ送られ、15歳と8ヶ月で亡くなった。

アンネの日記

アンネは13歳の誕生日に、父オットーから赤いチェツクの表紙の日記帳をプレゼントされた。

アンネは日記帳に「キチー」という名をつけて、友達に話しかけるように書き始めた。日記には、アンネが13歳から15歳の多感な時代を、狭い隠れ家で過ごした苦しみ、平和への強い願いが綴られている。

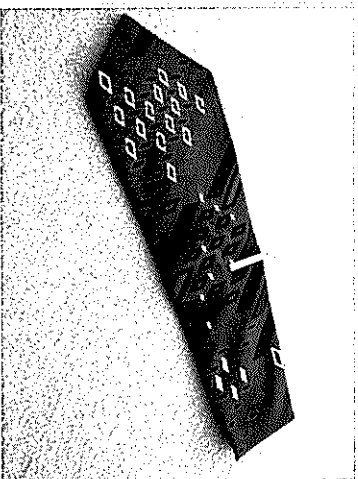
「アンネの日記」は、55以上の言葉に翻訳され、2千万部以上の本が出版されており、近年また注目を集めている。

アンネのバラ

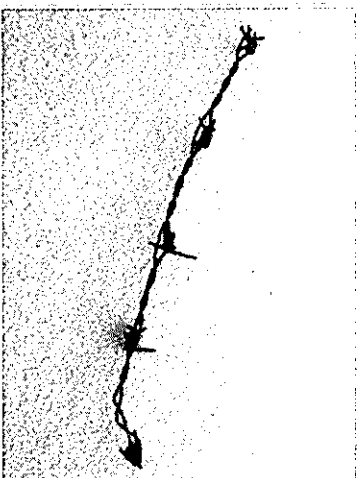
1971年4月、聖イエス会の合唱団が、イヌアエルの小さな町ナタニヤで、アンネの父オットー・フランク氏と奇跡的に出会い、友好が深まっていた。翌1972年のクリスマスに、オットー氏から聖イエス会宛に平和のシンボルとして“アンネの形見”と名付けられたバラが送られてきた。朱色を帯びた濃いグリーンは、美しい花を咲かせるアンネのバラは、それを受け取った平和を願う人々の手によって育てられ、その数は1万本を超えた。

会場 聖イエス会仙台ベタニヤ教会
場所 仙台市泉区黒松1-14-16
TEL 022-233-5760

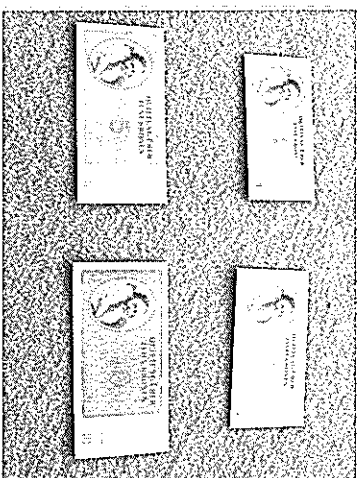
アクセス 地下鉄黒松駅より徒歩7分
<http://park6.walkwalk.com/~betanijalanne.furankuten/>
共催 アンネ・フランク展実行委員会
ホロコースト記念館(福山市)
後援 宮城県教育委員会



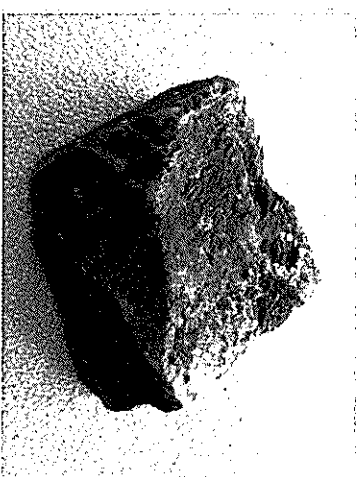
父オットーのネクタイとピン



収容所の有刺鉄線



テレジンの紙幣



アラシヒッツのレンガ